

教育現場で思うこと(十二)

成末 肇士



「十二、文」。江戸町人社会の子育ての格言です。十二歳までに「文」が書けるように育てなさい。と言うことです。当時の町人社会では「文」は現在の請求書になります。商人として、仕事の基本は請求書が書けることです。十二歳は小学校六年生です。義務教育となつている現在では、自分の考えや主張が、きちんと言葉や文章で表現できることだと思います。自信を持って表現できること

十二歳は、幼年期との決別を始めている時期でもあります。セックス、麻薬、飲酒、タバコ等に興味を持ち始める頃です。一方で小学校高学年では、友だちとの関係が心の中で重要な位置をしめます。友情を育て、維持すること、社会的な「共感」を育てたり、衝動のコントロールや怒りを抑える方法を学習することが重要となります。友情を育て、維持するには、子どもにとって、大変な苦勞がある

インドネシア(ジャワ・バリ)

島(旅行記)(2)

高崎 壽郎

「時差と「あぐり」」

この旅の目的地は、インドネシア共和国内のジャワ・バリ島である。この両島についての私の知識は乏しく、世界文化遺産の「ボロブドール」と神秘的なダンスぐらいである。これは外国人に「日本で知っている」とは「と訊ねると、「富士山と舞妓」と答えるようなものでしようか。

飛行機は約六時間でマレー半島南端に位置するシンガポール国際空港に着地した。とに角広い空港である。



大人には、何でもないようなこととで悩み、時には、喧嘩をし、話しあい友だちになつていくものです。塾や習い事で友だちと遊ぶ時間がなくなっている現在の子どもたちは、何と不幸なことでしょう。「クラブ活動や部活動は勉強ではない」と考えた子、子どもにそれを言う親が多くなっているのも嘆かわしいことです。

「十五、理(ことば)で未決まる」。十五歳までに、物事の道理を学ばせること。十五歳は中学校三年生です。世の中のあいまいな現実と直面し始めます。社会が悪い、親が悪い、学校が悪い、先生が悪い。世の中、悪い人だらけです。親も同じように言います。学校の先生も、しゅちゅう、そう言います。「つまらない世の中に生まれてきたものだ。」



そこで、時計の針を二時間元に戻した。我が国とは二時間の時差がある。現地の午後四時は日本時間の午後六時。日暮れにはだいたい時間があつた。何だか少し得をしたような気がする。しばらく待って飛行機を乗り換え、首都ジャカルタへ向かった。ジャワ島も時差は同じく二時間である。

ジャカルタのホテルで部屋に落ち着き、テレビのスイッチを入れてみた。余り期待はしていなかったが、NHKがはっきり見えたのである。ホテルの好意だったようだ。ニュースイレブンが始まった。

子どもがそう考えた時は不幸の始まりです。世の中には色々な人間がいて、色々な考えがある。自分はどう考えるから、希望をもって生きていこう。努力もしてみよう。これが道理です。様々な視点に立って、物を見る能力を育てることです。

「三つ心。六つ膳。九つ言葉。十二文。十五理。で未決まる」。江戸町人は、このように段階的に子どもを育てなさい、と言いました。早くから教え込むのではなく、年齢相応な教育をしたのです。十五歳までにきちんと順序よくそだてれば、将来は立派な商人になると確信したのです。現代に通じる素晴らしい教育方法です。

明治以降、日本は次々と欧米の教育方法を見習ってきました。日本にも、素晴らしい教育方法が、特に江戸時代に存在したことを、今一度考えてみて欲しいと思います。その中でも「感性」に関わることは大切なものを含んでいます。俳諧をはじめ文学も、浮世絵も歌舞伎も、どれも世界に誇れるものです。日本人の感性が優れていた証です。吉田松陰の松下村塾は、江戸末期から明治にかけて、大変な逸材を生み出しました。高杉晋作、木戸孝充、伊藤博文などです。

時計を見ると、ジャスト九時。今日の主なニュースを流している。居ながらにして我が国の様子がよくわかる。就寝前「明日は観光バスの出発が八時だから、今話題の朝の連続テレビ小説「あぐり」の視聴は駄目だな」と、なぜか私は早のみ込みしていた。時差のことを忘れて。

翌朝、いつものように六時過ぎに起床。テレビのスイッチを入れると、「あぐり」のテーマソングが流れてきた。時計を見ると六時十五分、日本時間は八時十五分である。よかったです。遠く離れた異国の地「あぐり」が見られるとは。世は正に、マスメディアの時代である。

次号はジャカルタの街

春夏秋冬

梶谷 マサヨ

夜毎にお経唱うる 刻楽し
昼の疲れもいつか消えゆく
如水館の応援団 太鼓のひびき
いと鮮やかに これぞ青春
夫の死に会いて解りし我が生の
いかに深きか夫婦の縁

松陰があらゆる知識と才能を備えた教育者だったとは考えられませんが、松陰は、門弟たちに興味を持たせ、誉めながら、段階をおって信じて、励ましたのです。「日本一だね。」松陰がよく言った言葉だそうです。

八月町内各種団体行事予定

- 小学校(幼)
- 全校登校(園) 五日
- 一・二・六年登校 一九日
- 五年登校日 二〇日
- 三年登校日 二七日
- 四年登校日 二八日
- 五・六・七登校(六時~二時) 三〇日

- 女性会
- 親睦会 上二言 中二日 下七言
- 役員会 二〇日

- 子ども会
- ソウトキック合宿 一三言

- 如水館
- 高校総体出場(香川大会) 二言
- 同 五〇〇M~一九二言

- 町内会
- 盆行事(追分盆会) 一五日
- 二・三夜(中野町会) 二三日

- 尚寿会
- お宮清掃奉仕作業 九日
- (午前七時半集合)
- ゲートボール場 草取り作業 九日

お知らせ
今年も恒例のお盆行事を行ないます。多数の参加をお待ちしています。
町内会連合会

税金考：日本国民が徴収される税金が高いのか、低いのか、素人の我々には判断材料が乏しく、言われるまゝに払っているのが現状ではなからうか。払った税金が効率よく使われることを願う者が、最近「課税最低限の引き下げ」説が時折報道される。今の日本では、夫婦と子供二人の家庭で年収三六一万円までは所得税はかからない。この「課税最低限度」は高いから引き下げたい、と言うことらしい。

英国では、年収一〇万円くらいで日本の三分の一。月収にして九万円程度で所得税を払うことのようなだ。▼数字音痴の私なんかは、こんな話を聞けば「成程日本は高い。」と思ってしまう。しかし視点を変えれば「月収九万円程度の家庭でも所得税が払える程生活が楽」なのだ、とも言える。支出(物価)との関係関係でみると、四年前の資料だが、公共料金で英国は日本の約三分の一。▼外国暮らしの経験のない私には想像の域だが、英国やカナダでは、月一〇万円もあれば充分暮らせるとのこと。「税の使い方」・「物価」にもっと神経質にならねば、生活が脅かされることになる。

修学旅行の思い出 (2)

河原 美穂

私は修学旅行で一番心に残ったのは、東大寺の『びるしゃな仏』を見た事です。思ったより大きかったのです。とてもびっくりしました。

それと、下から見ると小さな鼻の穴が、近くで見ると自分を通るくらい大きかったので、「本当に大きいなあ」と、思いまして。海遊館へ行ったら時、ジンベエザメを見たくてたまりませんでした。先生や、ガイドさんが「六メートルぐらいの大きさをだよ」と言われた、私はもっと見たくりました。

「ふかまちのまど」を読んで

森原 勇吉

毎月「ふかまちのまど」を楽しく読ませて頂いております。取材及び編集される方に感謝致します。

此の新聞を読んで、為になった事及び、感じた事を投稿致します。私は深町に住みついてはや廿年が過ぎますが、此の間に人から一何処に住んで居るか」と聞かれる事が度々ありました。その時、「深町だ」と答えると、「深町の田舎から出て来て居るのか」と言われ不愉快になる事がありました。



妻のゆめ

河野 強

家内がいつになく嬉しそうにここにしている。

「お婆ちゃん、今晚のご飯はなに？」 学校で部活（テニス）をやりに、お腹をすかして帰り、毎日きまって聞いてる。

「何にしようか……今悩んでいるよ。」 「ほお、男の人っていいね。おかずにする心配なくて、毎日晚になると何にしようか心配せんならんよ。よそにやあどうしようてんじやろ。白髪がよけい増える」と、ぼやき、おかずに苦慮しながら私を横目で見るお婆さん……

「じゃあ、うちが作ってあ

すると先生がいっしょに写してくれました。私は「先生も他の人にカメラを渡していっしょに写れたい」と、思

ったけど、先生はそうしませんで。ホテルについていた時、私はくたでした。だけど夜はおそくまで起きていたから、次の日も少しくたくただった。先生はもったくたくただったと思いつ

つて、次の日に「ねたいんだ」と、思いました。でもいろいろ分かってよかったです。二条城では江戸時代から、同じ場所があると聞いてとてもびっくりしました。

私自身も最近まで、深町とはスリ鉢の様な所で暮らし、他の町村の人との交流があまりなく、封建的な所だと思

この事について、「深町の歴史余話」を読ませて頂き、間違っていた事がよくわかりました。深町とは古い伝統があり、発展家リィダーのもとに、歌舞伎芝居で立派な芸を身につけ、他の町村で興業し盛んに、交流を深めていた事を知りました。今後は、人から「何処に住んでいるの」と聞かれても、胸を張って「深町だ」と答え、必要あれば伝統についても説明し話してやりたいと思

げる。学校で習ったんよ」と、カバンをはおりだし。服も替

想像以上に、美味しいものを作って食べさせてくれるのには感心である。男の子のような快活な子だが、矢張り女の子、最近とみに女性らしくなり、エプロン

食用品商フシケイが、注文した材料をとどけている日は、作り方のパンフレットを見ながら一生懸命、お婆さんに聞きながら大奮闘をします。不運にして母親がい

二人の会話も愉しそうにはずんでせこえる。早、花嫁の姿を会わせ想像しているようにも見える。

清水寺もそうです。くぎ一本使わずあんな大きな物を作り上げたんだから。「昔の人ってすごい知恵があったんだなあ」と思ってみていました。



次に他の記事について。同年代で共通な話題である。「歳は取りたくない」

今後の要望ですが、町内会各家庭でのユニークな出来事とか、各組織の行事予定

小々な時から手がけ、反抗期で困らせた時もあったが、今年から高校三年生。家のことも手

元気な体。高等学校最後の高校生活頑張ると素直で、よい娘になってくれることを願

最後に映画むらです。私はここでおみやげを買いました。それと、歩いてみると「まいこさん」

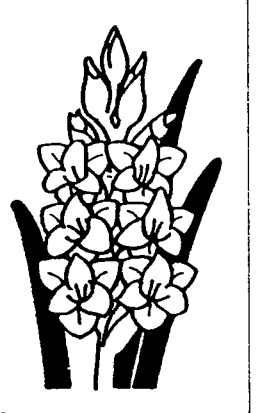
私のはなんだか「いい修学旅行になったな」と思いました。

人生雑感

船本輝明

高平ダムより左手に桜瀧を眺めて車道は終点となる。そして八幡町美生に通じる「中国遊歩道」を行く。

色々な伝説を今に残して、標識も丁寧に説明してある。奇岩・名石あたりの風景にさわられて歩を進めると「亀岩」と言



色々な空想を試みるのも面白い。昭和と旅通ふ人達が、又、現代では、秋の松茸狩りに、猪狩



桜 瀧